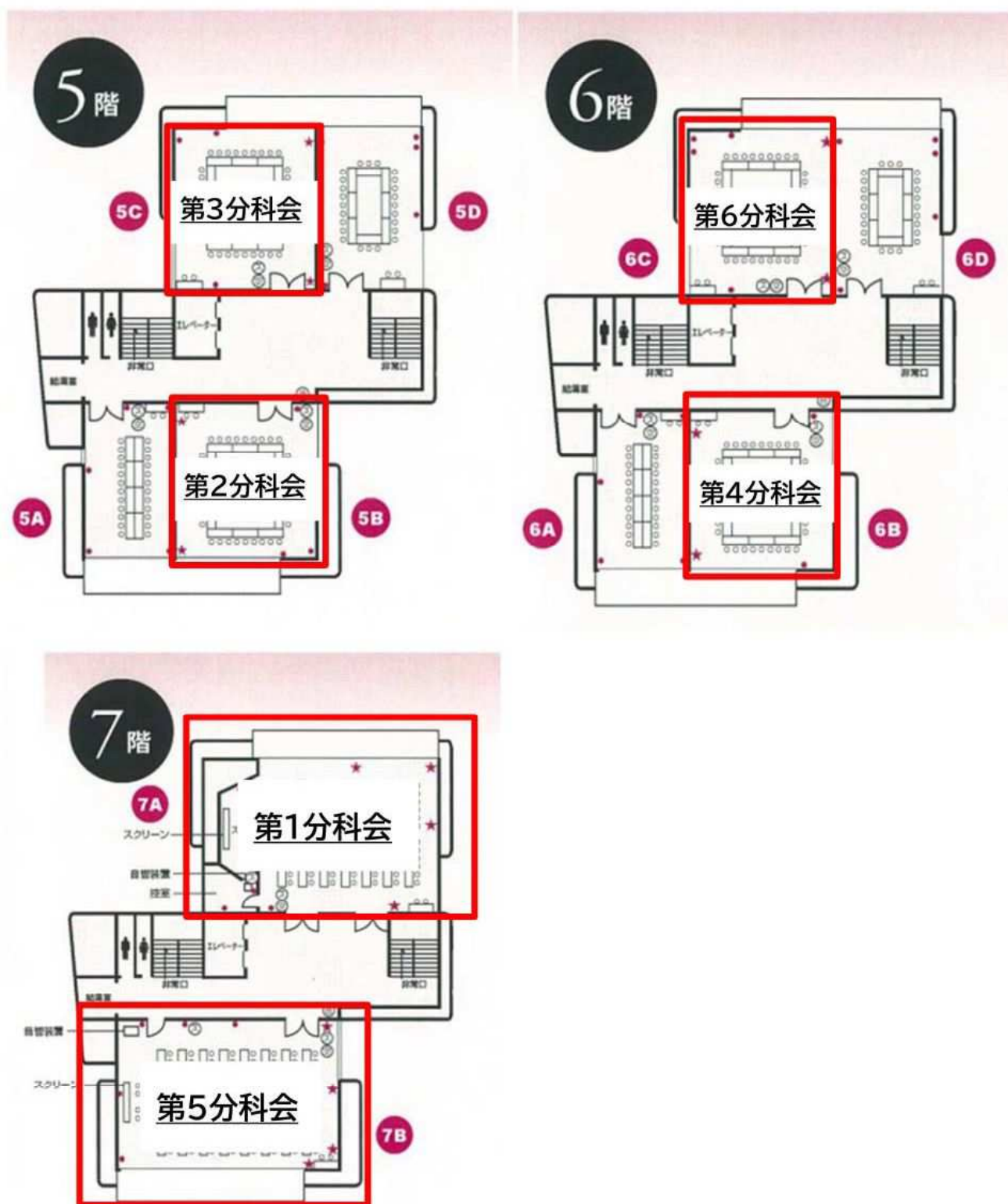


第3部 分科会

分科会	タイトル	会場
1	「川ゴミ」 分科会 プラスチックごみの現状と課題、市民への啓発	7A 会議室
2	「歴史・文化を活かした川づくり」 分科会 舟運、河岸、川漁	5B 会議室
3	「川と防災」 分科会 川と自然災害、市民の防災活動	5C 会議室
4	「豊かな水辺空間づくり」 分科会 河川利用、親水、川づくり	6B 会議室
5	「水辺の生物」 分科会 水辺の生き物の調査研究、保護、環境学習	7B 会議室
6	「水質改善」 分科会 河川や湖沼の水質調査、改善	6C 会議室

■分科会会場マップ



第1分科会:「川ゴミ」分科会」分科会報告

テーマ「プラスチックごみの現状と課題、市民への啓蒙」

報告者:熊谷の環境を考える連絡協議会 町田 直昭

参加者:10名

・ 一般社団法人ピリカ	1名
・ 草加市カヌー協会	3名
・ 埼玉県立杉戸高校理科部	1名
・ 久喜市青毛堀・稲毛台用水	1名
・ 熊谷の環境を考える連絡協議会	2名
・ ホトケドジョウ調査会(坂戸市)	1名
・ 荒川夢クラブ(川口市)	1名

*参加者申し込み人数(21名)あり

スタッフ: 座長:町田 直昭(熊谷の環境を考える連絡協議会)

書記:林 恵美子(荒川夢クラブ)

次第

① 話題提供1:「熊谷市内河川のマイクロプラスチック調査」

熊谷の環境を考える連絡協議会 江原 仁さん

- ・市内3河川(和田吉野川、忍川、福川)各1か所ずつ選んで、令和3年に調査分析会社と協力して実施した。
- ・まず、海のプラスチックごみの8割は陸域起源とされ、海洋生物が食べて有害な化学物質を吸収して生物のからだに蓄積されるショッキングな状況となっている。
- ・今回の調査方法、調査写真(調査地点、状況、サイズ別の捕集個数分析及び材質分析グラフ)などについて詳しい説明があった。
- ・マイクロプラスチックのサイズは、5mm以下をいうが、今回は1mm以上5mm以下を捕集個数分析を行った。
- ・調査結果及び考察は、各河川でのマイクロプラスチックの捕集個数や密度や形態別、素材割合をまとめた。流域面積が大きい河川(源流からの距離が長い)ほど密度が高いことが分かった。過去の荒川の調査結果(0.4~8.4個/m³)と今回の結果(0.6~4.5個/m³)もほぼ同じ範囲内であった。

② 話題提供2:「ピリカの取組みと最新情報」

一般社団法人ピリカ 箕田 悠里さん

- ・ごみ拾いSNS「ピリカ」を活用した「不法投棄通報」について、アプリで不法投された廃棄物の状況を写真やコメント付きで簡単に通報することの説明があった

- ・埼玉県「廃棄物不法投棄110番」と廃棄物に関する不法投棄の通知度として、フリーダイヤル及びスマホ向けアプリ「SNS」を利用した廃棄通報管理システムを設けています。
- ・さいたま市のごみゼロ運動の取組みとして、ピリカアプリをSNS利用している。
- ・学校教育のテーマとして、助成金を活用した海洋プラスチックを題材にした環境教育プログラムのサポートを行っている。

③ 自己紹介

参加団体の全員から、会の規模、経歴、活動内容等について紹介を行った。

④ 参加人員が少なかったため、一同で掲げたテーマに沿ってフリーディスカッションを行った。以下各団体から出された主な発言内容を記す

<久喜市青毛堀・稲荷台用水>

- ・川や河川敷に不法投棄が多い。ポリ袋、空き缶、ペットボトルに入れたまま散歩がてら？捨てている。“モラル”の問題だ
 - ・団体の制服を着てパトロールしながら、ごみの回収を行っている。
 - ・「ごみ捨てるな！」看板などで不法投棄防止を図っているがマナー、ルールを守らない人が多い。
 - ・子供たち時代から“川ゴミのモラル教育が必要だ。例えば、家庭科授業とか
 - ・市の補助金で、ごみ拾いを分別後清掃センターへ運び回収処理している。
 - ・県の「川の国応援団」は、補助金や器具貸出を増やしてほしい。
- 又、川ゴミ活動をもっと現地見学してほしい。

<草加市カヌー協会>

- ・カヌーで“楽しくごみ拾い”を行っている。若い世代の親子の参加多い
- ・潮の満潮で河川へ東京葛飾区(下流)のごみ袋のものが草加(上流)へ漂流物(オムツ、ペットボトルなど)が流れている。
- ・ごみ拾いよりカヌーを乗るのが楽しみで参加が多い。年1回カヌー大会を開き結果をライン、映像記録を編集することでスキルアップを図っている。
- ・世代交代は、先輩たちが良い見本を学べるような雰囲気づくりが大事だ。
- ・最近、ゴミに財布、マイナンバーカード、貯金通帳などが見つかった。
- ・市の補助金でごみ拾いしたものを清掃センターへ運び回収処理している。

<熊谷の環境を考える連絡協議会>

- ・毎年11月に荒川河川敷で約1000人規模(環境及びスポーツ団体、企業、行政、地元住民)の参加による一斉ごみ拾いを行っている。
- ・行政主体とした「ごみ拾いウォーク」を春・秋2回を実施しています。団体、親子の参加のもと“ごみの実態”を直に体験している。
- ・より身近に川の自然環境に関わることで川への関心を持ってもらおうと目的として、若い世代の親子を対象とした「生き物観察会」毎年春に実施している。

- ・日本はプラスチックを燃やしているがリサイクルではなく大問題だ。ごみ削減のためもっと製品開発をしなければならないと思う。

<杉戸高校生物部>

- ・少人数のため、水質調査など他大学と共同しながら活動を行っている。
- ・子供たちの川に対する意識は、川は危なく近づかないため愛着がわからない
- ・川ゴミは大人が捨てるので清掃活動に関心を持ってない。
- ・夏休み中に、ポスター作成をやることにむりやり感がないか？

<ホトケドジョウ調査会>

- ・自治体施設で市民向け環境学習や鳥観察会などを通じてごみ拾いを行っている。

<夢クラブ>

- ・荒川クリーンアップ企業
- ・分別処理を、県と川口市と市民との3者協定を結んで連携している。
- ・啓蒙活動は、地元町会と共同しながら行っている。
- ・子供たちに、夏休み中に川ゴミに関するポスターを作り川辺に掲示している
- ・企業参加を促すこと社会貢献活動として位置づけを図っている。
- ・“ごみは時代を映す鏡！社会の縮図”

<ピリカ>

- ・ごみ拾いは、自治体や市民団体とアプリを活用へのサポートしている。
- ・環境学習や講演会などを通じて啓蒙活動を行っている。
- ・川ゴミ(マイクロプラスチック)の調査、分析研究して川ゴミの啓蒙活動を行っている。

⑤ まとめ

第1分科会「川ゴミ」は、最も身近な環境からできることのテーマであり各参加団体共に日頃から実践している活動ことを真剣かつ率直に意見交換ができた話題提供した「マイクロプラスチックの現状と将来への影響」や「SNSを活用したごみ拾いアプリの最新情報」について共有により知識が深まった。意見交換で出された様々な課題として「不法投棄をいかになくすか」「活動団体高齢者化問題」「地域と川との関わり方」「会の継続を図るために次世代につなげる活動とは」などについて、活発なアイデアが出て活動へのヒントで共通認識が得られたと思います。今後とも「川ゴミ」は様々な課題を解決する処方箋は探るため市民団体、学生、企業、行政間でのより連携を図るために情報共有が必要性を参加者の皆さん共強く感じました。



第2分科会「歴史・文化を活かした川づくり」(舟運、河岸、川漁) 報告

座長：鈴木勝行 (NPO 法人荒川流域ネットワーク)

記録：堺かなえ (NPO 法人多摩川センター)

出席：20 名



○参加者自己紹介

○活動紹介1：柳瀬川の川づくの紹介 柳瀬ゴローさん (川づくり清瀬の会)

- ・ 2001 年に会を発足。清瀬を流れる柳瀬川、空堀川で保全活動、定期的な子供たちも交えた清掃活動や子どもたちを対象とする観察会などを行っている。アユのほか、オイカワ、カワムツなども見られ、市民の参加も多い。ラジオのパーソナリティとして活動の発信もしている。
- ・ 高度成長時には生活排水による川の汚染が目立った柳瀬川だったが、多自然型川づくりによって再生した。清瀬では新住民が増えつつあり、会でもそうした方たちの自発的な参加から会員になった方も多。地元の川を広く知ってもらう活動を行っている。
- ・ 沿川の金山緑地公園の池はTV番組「池の水を全部ぬく」でも紹介(2020)され、外来魚の駆除作業は、清瀬市の協力も受け行っている。7月に行う「環境川まつり」では柳瀬川のアユなど魚を展示し、子どもたちの関心を呼んでいる。
- ・ 清瀬の地名の謂れはヤマトタケルノミコトが「清き瀬なり」と言った伝説が残る歴史のあるまち。柳瀬川を子どもたちにどう残していくか、活動メンバーの高齢化などの課題もあるが、川の保全は人の力が大きく働く。ラジオやSNSを活用し市内外に活動や川の魅力を発信し、さまざまなスキルをもった人の参加を促し、親しみのある川づくりを進めている。

(鈴木) 柳瀬川の皆さんがこれから新しい川の文化をつくっていこうという姿勢を感じた。

○活動紹介 2：新河岸川の川づくりの紹介「テーマ：川でつながる」

山本 長志郎さん（わくわく新河岸川みどりの会）

- ・川の保全、再生に人の繋がり、協力がいかに大切かということを中心に話したい。朝霞を流れる新河岸川、黒目川が合流する所で活動をしている。2008 年、朝霞市のパートナーシップカレッジにおいてこの場所を生きもののふれあいや皆が憩える場所にする計画検討を行った。黒目川の下流側は耕作放棄地などクズに覆われ人が立ち入れない荒れた状態だった。ここを何とかしようとクズ根の掘り起こし除去から行った。
 - ・実現には行政の力が必要ということで朝霞県土事務所に相談、全面的な支援を受け、市や町内会など住民に協力を要請した。県の川の再生 100 プランに提案し、関係者の合意のもと、自然を生かした景観、ピオトープ等を皆で作し、住民の憩いの場になった。
 - ・2012 年より「黒目川まるごと再生事業」（朝霞市、新座市の共同事業）がスタート。市民が主役、各地域のリーダーが地域の意見をまとめ、緑地を遊歩道でつなぎ川と公園、上下流が一体となる整備となった。県、市、地域が一緒に取り組むといい場所になる。いい場所ができると人が集まる。
 - ・黒目川では川まつりなどのイベント、調査、清掃など多くの団体が関わり、団体間の連携、協力体制が生まれ、まさに川で人がつながっている。
- （鈴木）それぞれの団体が地域で活動をしているが、川を通じて情報交換や連携することが重要なんだと思う。

○活動紹介 3：カヌーを使った川遊び体験 桜井 行雄さん（比企自然学校）

- ・比企自然学校は補助金など受けず会費で運営し、活動は無報酬、古民家を活動拠点として、好きな事、できること、楽しいことをと活動している。「川の学校」「森の学校」「大人の部活」の各活動とともに連動させたカヌーや薪、古民家再生の活動も行っている。
- ・活動している都幾川や荒川は、水は結構きれいである。川ごみゼロの活動では、あまり成果がない（ごみが無い）。
- ・体験イベントとしてカヤックは当初県に借りて実施していた。環境学習、自然体験は武蔵丘陵森林公園で毎年開催される「沼まつり」の支援で実施している。小学校の環境学習は、フィールドワークと座学をセットに行っている。
- ・活動の転機として 2019 年の台風で都幾川が氾濫した。軽トラ軍団でまちなかにあふれた災害ごみを片付けた。
- ・2020 年以降のコロナ禍で活動ができなくなったが、作って楽しむ川遊びと銘打ってカヌー工房でカナディアンカヌーを自作（6 艇）、教わりながら図面を作成、工程のデータ化も行う。カヌー体験のほか、観光協会とのコラボ事業も出てきている。
- ・その後、都幾川では災害復旧工事や遊水地の造成工事が続いており、川に近づけず広域的に活動しようと荒川の玉淀など上流のダム湖などでもカヌー体験を実施している。都幾川はまだ工事中だが河床掘削によりカヌーには抜群の環境になった。
- ・このように状況のピンチをチャンスとし、活動の多様性、強靱性、広がりにつながった。

(鈴木) 荒川流域ネットワークは、比企自然学校に間借りをして資材関係を置いてもらい、情報交換もしている。都幾川は 2019 年の氾濫以来、多くの河川工事により環境が随分変わった。今の話のように良い方向に変わった所もあるが、いままでいい石があった所に工事の砂が溜まり魚の餌場が消失するようなマイナスの面もある。

○活動紹介 4：入間川水系の溯上アユの復活と川漁文化の継承

鈴木 勝行さん (NPO 法人荒川流域ネットワーク)

- ・ 会は 30 年前に発足し、以来、埼玉県と荒川、大宮台の各河川の水質調査を続けてきた。当初は各地に洗剤汚染で泡が溢れる川があった。
- ・ 秋ヶ瀬のアユの溯上数では一時期急激に増えた。原因は分からないがおそらく川、海の生息環境が一気に良くなったのではないかと考えている。2019 年の台風以来減少に転じている。
- ・ 2007 年からは入間川のアユの溯上環境についての調査を始めた。入間川は滝のような 4~5m の落差があり、20 年の間に洗堀が進み魚道もない状態だった。流域全ての堰でどのぐらいの落差があるかを調べ県に報告した。同時にアユの脂ヒレを切り標識にし、下流から放流し堰を溯上できるかどうかの調査を 6 年間行い、これも県に提供した。
- ・ 川の再生プロジェクトで魚道の設置を県に要望し、12 か所の堰等に整備された。整備後のモニタリング、改良が必要だが、会で 10 年以上続け実施、効果を検証、改良作業（工事）も行った。仮設の魚道は、一度の洪水で壊れてるので、改善には本格的な工事が必要と実感した。県ではさまざまな形式のその場所にあった魚道を設置してくれた。
- ・ かつて地域の川まつりで子供たちも参加していた川漁を復活させたい、入間川水系のアユ漁を次の世代にも伝えていきたいと、地曳網、刺し網など川漁の復活、魚とり体験を行っている。川漁体験後、夏の酷暑の中、川の水で身体を冷やす子供たちの姿を見ることができる。ガサガサでの甲殻類の採集や投網、ピストン釣りの講習会なども行い、捕れた魚は水槽に展示、ミニ水族館で紹介している。さらに、はらわたを取るなど調理も体験し川魚を味わってもらっている。子どもたちはアユの塩焼きよりフライの方が好きようだ。13 年間で 1646 人の親子が参加した。今後も続けて子どもたちに川の面白さを知ってもらいたい。

※団体で制作した荒川の歴史・伝統（ドロツケ、オヒナゲエなど）の映像記録（DVD）の紹介

【意見交換】

古くて新しい川文化としての川あそびを考える

- ・ 柳瀬川では川で泳ぐなど、川に入る子どもたちもいる。遊泳は禁止ではないが、学校では入るなという指導をしている。一部下水も流入している。
- ・ 東京の川は埼玉の一部の川よりも結構きれい。
- ・ 本日の講演でもウイルスや感染症の問題が取り上げられていた。
- ・ 子どものころ川で泳ぐとよく中耳炎になった。以前の川には、浄化機能があった。下水や処理水の流入もあり、清流に見えても無菌状態というわけではなかった。しかしその

ことが子どもたちの免疫力アップに繋がっていたと思う。

- ・かつては築があり、川魚を食べる文化があった。今でもアユを食べる人はいる。
- ・川は危ない、汚いと子供たちを川から遠ざけてきたが、かつては子どもたちにも川の先輩、後輩があり、上の世代や親から川遊びや危険を教わっていたが、プールができてから伝承できなくなり、かつての「川ガキ」がいなくなった。
- ・ライフジャケットの着用は絶対だが、川遊びでライフジャケットを着けるのは危機回避能力を養えないのではないかという意見もある。ちゃんと泳ぐ、危険なことをわかっている、そこで教わることが重要で、増水時の川の流れ方は泳いでみるのが一番わかるが、川で泳ぐ経験のない子どもにそのような体験をさせることはできない。小さい頃から徐々に体験を積み重ねれば、事故は起きにくいがそこは難しい。
- ・清瀬市では、耐用年数が過ぎて学校のプールが無くなった。民間の施設を利用している。川をプールとして使えないかという話もあったが、現在の水質では厳しい。
- ・学校が川を利用するのはハードルが高い。自己責任でNPOが川に連れて行くしかないのかもしれない。
- ・環境川まつりを毎年開催し、ガサガサ体験のほか、昔は筏あそびなどもしていたが、安全性についてPTAより意見があって実施しなくなった。本当はやらせてあげたい。
- ・緊急の時どうなるかが分かっていないと、予め想定していないと難しい。

○活動紹介 5：舟運の活動について

川口さん（NPO 法人 舟運・ふじみんの郷）

- ・新河岸川広域圏ふじみの里。川の再生 100 プランで川をきれいにする提案をし、承認され県で船着き場を含めた改修がなされた。その後、県と自治会が集まり周辺の景観の維持や美化運動の継続について検討し、「ふじみんの郷」として発足した。
- ・美化活動、清掃活動、川まつりでのこいのぼりの掲揚（200 体）等の活動を行っている。
- ・「河岸（かし）まつり」で河川敷にペットボトルのランタンを点灯している。かつては灯籠流しもあった。川を渡すこいのぼりなどきれいな景観は皆さんに喜ばれる。
- ・船着き場近くの河川敷や寺尾遊水地で小学生の虫取り体験を行うなど、学校間の連携も取れるようになった。
- ・地域の子供たちに川に住む魚を知ってもらうための小学校への水槽の寄贈展示や近隣小学校のこども祭で川の石を使ったストーンペインティング教室などの活動を行っている。

【意見交換】

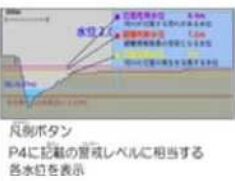
- ・日本の川の重要な文化の一つとして「灯籠流し」があり、川は神事を行う神聖な場所でもあった。いまの若い人たちにはそういうイメージはないかもしれないが、各地にそれぞれの「灯籠流し」の文化があった。
- ・こどもの頃、和船を漕ぐのが楽しかった。いまは和船もないし漕ぐところもないので寂しい。桜井さんに是非和船も作ってほしい。
- ・利根川や新河岸川水系にはかつて和船を漕ぐ文化、舟運があった。川の再生交流会がス

タートした 15 年前、新河岸川で和船が復活した。志木で行われる桜フェスタでは 20 人乗りの和船の運航がある。独協大学ではカヌー体験も行っている。

- ・歴史・文化を活かした川づくりがテーマだが、船着き場の利用など民間が頑張っても自治体のしびりがあってできないこともある。川漁や川魚の食文化も地産地消にもつながるので活動として大事だと思う。
- ・我々の活動が発足した際に市と県と三者協定を結び、川の中に自転車やバイクなど大型のゴミは県が回収、我々が活動で拾ったゴミや刈草を市が回収するという連携をとっている。その他問題があれば調整するという事で調印式が行われた。協定を交わすこと、協調しながらも物申す時は申すのが活動、連携にとって大事なことである。
- ・国、県、市などそれぞれ管理の範疇が違うので、市民もそれを良く理解して、一番有効な連携の方法を市民から提案できるとよい。川のごみは減ってきているのはいい傾向だが依然としてある。
- ・リバサポの展示で川の図鑑として新河岸川舟運の歴史が書いてあるが、歴史や文化とは直接関係ない特定のイベントが紹介されていると、そこだけに多くの人が集まり他ができなくなる。
- ・川をきれいに保つというのは上下流一体となった動き、連携が必要。朝霞の場合は特に新河岸川の下流など、台風の後には凄いゴミがあり、その回収を市民がやっている。
- ・ただ、洪水時など上流の方が浸水被害で災害ゴミが下流に流れてしまうことがある。自治体に回収対応をしてもらう場合もある。
- ・川掃除をすると下流に流れるというのは、まちの美化が視点になってやるので、上流では目の前からなくなればいいという発想になりがち。いつも下流の事を考えながら、掃除をしてくださいと言っているが、清掃活動ではそういう視点が大切だと思う。
- ・（大学生感想）皆さんの話を聞いていて、こどもや地域の人と一緒に活動することが、次世代を担っていく子どもたちにも川を大事にして欲しいという思いを伝える、思いがこもった活動なんだと感じた。私たちも川に興味をもってもらうためのカヌー体験活動などを行っているが、次世代に伝える活動を模索しているところなので、皆さんのお話を参考にして今後の私たちの活動も続けられたらいいなと思った。
- ・（高校生の感想）正直言ってあまりわからないこともあったが、自分たちの高校も今、身近にある大落古利根川の研究をしているので、皆さんの活動を参考にしてこれからも頑張ります。

人の暮らしが変わり、川を巡る文化も大きく変わった現在、新しい川の文化を作り出す最前線にいる方々の貴重な情報交換の場になったのではないかと思います。記録については、NPO 法人多摩川センターの堺かなえ様に、お忙しい中ご尽力いただきました。有難うございました。（鈴木）

川の再生交流会 2025
第3分科会「川と防災」報告書

1	日 時	令和7年2月8日(土) 13時45分～16時00分
2	場 所	埼玉会館 5C
3	参 加 者	6名
4	座長・記録者	大塚克也
5	内 容	①自己紹介 参加者6名の方から名前、居住地とその周辺の河川の様子、過去の洪水、その他河川への想いについて発表していただいた。  ②マイ・タイムラインとは  いざという時にあわてず に行動するために、い つ、何をするかを整理し ておく一つの手段とし て、マイ・タイムライン がある。  避難情報は、5段階で表 現している。適切なタイ ミングで避難を開始する ことが必要である。 ③天気の確認  台風や前線を伴う気象情報は、時々刻々と変化している。以下のように最新の情報を集めることが大切である。 ・台風の大きさ、強さ、進路 ・前線の動き ・雨量 ・雨が降っている地域(川の上流) ・今後の見通し を調べた。 ④川の數位調べ  河川の水位上昇に関する情報も、時々刻々と変化している。以下のように最新の情報を集めることが大切である。 ・近くの川の水位 ・上流の川の數位(今後の見通し) ・氾濫の発生 インターネットで、水位のリアルタイム情報、ライブ情報、洪水予報を調べた。 ⑤避難情報の確認  気象情報や河川水位の情報の変化により、避難場所や移動方法等も時々刻々と変化している。以下のように最新の情報を集めることが大切である。 ・高齢者等避難・避難指示 ・避難支持 ・避難所の開設情報 複数の避難場所確認、道路交通状況の確認、ペットの受入、バリアフリー状況等について調べた。

5 ⑥重ねるハザードマップ等の紹介



重ねるハザードマップは、災害リスク情報や防災に役立つ情報を、全国どこでも重ねて閲覧できることを説明。

- ・ある地点の自然災害リスクをまとめて調べることができる。
- ・洪水や地形分類図等個々の防災情報を重ね合わせて閲覧できる。
- ・複数の市町村・流域にまたがって防災情報を閲覧できる。

⑦避難準備



太田区ハザードマップ（風水害編）

ハザードマップを再確認し、安全な避難場所や避難ルートを確認した。

- ・家族で話し合っておくことも大切であることを伝えた。

避難の時に持っていくものの確認

- ・車（ガソリンを入れておく） ・財布（現金） ・常備薬
- ・子どもの大切なもの ・思い出のもの ・スマートフォン

⑧マイ・タイムライン作成ためのチェックシート記入



マイ・タイムライン作成のためのチェックシート

- ・洪水ハザードマップや浸水想定区域図等でチェック
住んでいる場所の浸水深、浸水継続時間、家屋倒壊等氾濫想定区域、土砂災害警戒区域
- ・家庭の状況チェック
車、ペット、持病薬、避難に被害が必要な人
- ・避難先のチェック
洪水ハザードマップに記載されている避難場所、親戚・知人の家

⑨川がはんらんするまでのワークシート記入



川の水が氾濫するまでの主な備え

- ・台風の何を調べる
- ・避難するときに使うカバンは
- ・どこかを確認する
- ・川の水位をどうやって調べる
- ・どんな靴をはいて避難する
- ・移動するときに危ないところはどこ

⑩マイ・タイムラインを作る



台風が発生してから川の水が氾濫するまでの備えを、マイ・タイムラインを作る。



6 講評

参加者6名は、10代から70代と幅広い年齢の参加となった。10代の参加者は高校生で、資料を見てマイ・タイムラインの作成を積極的に行っていた。学校で毎月のように防災訓練はあるが、マイ・タイムラインを作成する機会がなかったので、今回の参加が役にたったとのことである。70代の方は、マイ・タイムラインの作成に消極的であった。残念である。

7 課題

川と防災は、どうしても令和元年台風19号の話題に偏ってしまいます。あの時の被害の状況を生の声で聞くことができるが、これを解決するために誰にどんなことを伝えたいのか見えない。もっと課題設定に工夫がほしいと考える。

第4分科会 豊かな水辺空間づくり



参加者 13人 事務局2人

座長 小林 一己（埼玉連・黒目川）

出席 与野こうぬま用水1人、東松山児沢探検1人、
古利根川1人、比企自然学校2人、
新座川爺1人、草加カヌー協会1人、
（有）福井工業4人、春日部カヌー協会1人、

【1】活動紹介 3団体 （1）河川遊歩道づくり、（2）カヌー活用、（3）ペットマナー向上

（1）大落古利根川から（豊かな水辺空間）を考える（春日部市）

1、遊歩道 風のテラス

県川の再生事業で、春日部市中心市街地の古利根川に遊歩道がつけられた。県の当初案は、堤防と同じ高さにデッキを構築し、川を見おろすテラス案だった。

市民が水辺に降りて歩くものに変更提案。【右写真】採用され、今までの川が変わった。

新しい展開が次々に起こってきました。



「この木が大好き
なと毎日抱きしめる人」
「ここでは、雑草までもきれい
に見えます」

堤の機能を確保しながら、
自生しているスゲなどの在来種の
保全による里川的な生態系
保全を目指している。



←桜の時期の遊歩道の全景
・通常の遊歩道（レベルが車道）
と自然観察親水型遊歩道の違い
が分かります

2、風のガーデン

堤防と同じ高さの岸边には、市民手づくりのガーデンをつくりました。

市民が河川空地に手を入れ、ガーデンをこしらえた。苗や種を提供してくれる人、虫の声を聴く人、魚とりに来る人、ハーブ積み、心いやす人。

川は、たくさんのいのちや、たくさんの思い出を受け入れてくれる存在になった。

川は、流域社会の有り様を映し出す鏡。

川は、使い、守り、維持することに、
責任をもつ人を育て、
流域において責任ある主体を生み、
育むためのふさわしい場。

川が変わり始めると、人も変わり始め、まちも地域も変わる。





：小さな椅子づくり・コミュニティ箒・募金箱・川のテーブル・芝生広場・丸い石展示・小枝仏展示・ホモ・サピエンスの歴史年表展示・生命誌年表展示・風で動くおもちゃ展示・旗作りWS・虫の家・生き物の家・堆肥

場づくり・サークルガーデニング・子ども流作地のミニトマトづくり・ラベンダー・ガーデニング・簡易流量計・水生植物園・なんだ？・テラス日記掲示板・掲示板・・・こうしたことを市民が自主的に行った。

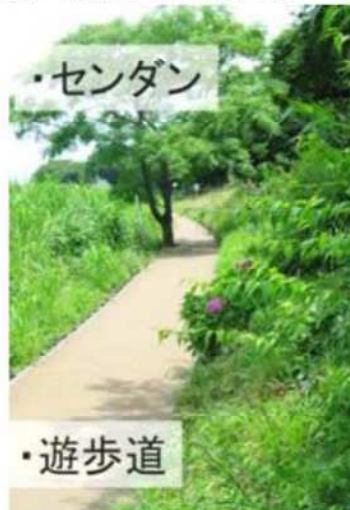
◆質疑

質問 説明の古利根川の年間水位変動が、カヌー乗りの私の実感と違うと思うが、いかかがか。

→基礎データを、あとでお教えします。

質問 川の中に木があってもよいのか。治水問題ないのか。

→遊歩道わきの大きなケヤキは、枝が落ちるかもしれないので、ロープで吊っている。



大落古利根川

→河道内（堤防の内側）に木は植えられないが、自然に生えた木は、危険がなければ残される。

質問 水辺の遊歩道は、洪水後に泥がたまるなど、メンテナンスが必要ではないか。

→冠水しても泥は少ない。行政に維持は私たちがしますと、提案している。誰でもそうじできするように、コミュニティーほうきをおいてある。

→川の使い方、考えに気を付けている。あるものは残すが、大きく危険になった木は伐りました。

総括 1980年代に多自然川づくりが始まり、1997年に河川法が変わり、川は治水・利水・親水の環境が加わったが、環境が生かされていない川づくりが多い。その中で、ここは環境を実現した実例。

ここでは、市民提案・参加が生かされた事業となったため、市民の責任・モチベーションが高まり、様々なことに市民が参加、長い年月にわたり川づくりが継続されている。

「川は住んでいる人や訪問者によって育てられる」（大落古利根川）

（2）春日部カヌー協会（春日部市）



大落古利根川夕涼みまつり

で参加しています。

春日部市内にカヌーの艇庫を持ち、歴史資源と川を生かした街づくりをめざしています。

市民の憩いの場と観光資源づくりとして利用するために、河川清掃を行っています。

地元のイベントにカヌー出して、企画を盛り上げています。毎夏の春日部での夕涼みまつりで、カヌー体験をしてもらっています。

サクラの時期、近隣商工会イベントにもカヌー体験

秋には、草加市のあやせ川松尾芭蕉杯カヌー大会に参加し、また、障がい者団体とカヌー&芋煮会を行っています。

岸边から届かない川ゴミを、カヌーで回収し、陸に引き上げる。カヌーならではの清掃活動が強みです。



◆質疑

質問 カヌーはどこでもできますか。

→できます。ただ大規模利用なら、行政から河川占用許可を取ります。

質問 綾瀬川はきれいですか。

→きれいになっています。かつて日本一汚い川でしたが、今も川底にヘドロは残っているかもしれませんが、きれいです。

質問 カヌーは何艇ありますか。

→30艇あります。家具屋さんの駐車場のスペースをお借りしています。



春日部カヌー協会



質問 カヌー保険はどうしていますか。

→川の国応援団に登録してあるので、イベントの際に、申請して保険を、県にかけてもらっています。

質問 岸边から急に深い場所は、カヌーの乗り降りはどうしていますか。

→厚板状の浮きさんばし棧橋（大型発砲スチロール）を浮かべて、そこから乗り降りします。軽いので楽です。

(3) ペットマナーキャンペーン (朝霞市)

河川遊歩道でのペット散歩、ペットのフン置き去りでお困りの方に、トラブル解決の妙策です。

ペットマナー改善のために、看板を立てても効果なく、次第に看板内容がエスカレートし、暴力的な文言にもなりかねません。こんな看板の中を散歩したくありません。そうなる前に手を打ちます。



朝霞市の黒目川遊歩道でも、ペットフンの置き去りが多く、子供が「ママこれひろったよ」とフンをつまむのを見て、ママは卒倒しそうになり、散歩もできなくなります。

そこで、ある地域のキャンペーンを真似しました。フンのところに立て札を立て、フンと札を一週間放置し、次週にフンと立て札を回収します。一週間だけ「フンの見える化」をしました。それだけです。

それだけで、劇的に置き去りが無くなりました。ペット主とは非接触型のキャンペーンです。

2010年に実施したときは、片道2km 両岸で4km 区間に、230個のフンがありました。地図に記録します。立て札には、「ワンちゃん忘れ物ですよ」「ワンちゃんフン処理、お願いします」と低姿勢の文言をいれ、かわいらしく作ります。キャンペーン翌週以降は、クリーンな散歩できるようになりました。



フンへのマーキング



翌週マーキングとフン回収作業

フンの置き去り激減の理由は、こう解釈しています。

フンは見えにくくても、立て札は目立ちます。延々と立て札の中を散歩する人々の心理や、いかほどでしょう。「私だけかと思ったら、こんなに」「うちのフンがさらしモノになっている」「これはまずいな」と、持ち主の公德心を呼び覚まします。散歩は毎日ですから、一週間毎日、飼い主は目にするわけです。

実はこの立て札は、飼い主よりも多数派の一般散歩者へのアピールでもあります。一般散歩者からペット散歩者への、無言のソフトプレッシャーに期待しました。ケンカしないソフトランディングです。

しばらくすると、また忘れものが増えたので、8年後に実施。範囲を広げ往復6km 区間に98個ありました。10年に一回くらいやれば、よいのではないのでしょうか。いややらずに済んでほしいものです。

親子で安心し、身持ちよく散歩できますように。

◆質疑

提案 大落古利根川の 250m 区間では、ペット散歩者に写真を撮らしてもらい、それをプリントし、「このワンちゃんはマナーを守ってます」と遊歩道に張り出し、マナー向上をはかっています。

→禁止掲示がネガティブキャンペーンなら、こちらはポジティブキャンペーンですね。

質問 不法投棄にはどうしていますか。

→外国人、特にアジアの人は、母国では川がゴミ捨て場のケースのあり、日本は違うことを、外国語で書いて、貼りだしています。

休憩タイム

【2】自由討議

紹介 新座市野火止用水では、かつてホタルがいたことから、8 年前からホタルを放している。その一部が自然繁殖し始めました。ホタルがいることで、人々の見る目が変わります。

質問 カワニナはどうしていますか。

→エサのカワニナは、毎年放している。

質問 大落古利根川の遊歩道のメンテナンスは、どうしているのか。

→現在は 250m 区間だが、1200m 要求している。

→延長には予算が必要、環境だけでは予算付かない。改修工事のようときにやれる。川の再生事業は全県で 100 か所。80 億円の市場公募県債・愛県債を発行してまかない、250m 区間はできた。

質問 そのテラス改修は、多自然工法でやるのか。

→多自然が基本。多自然工法の方が、防災上も有効。今はグリーンインフラの時代になっている。

→垂直矢板護岸が倒れた場合、次も矢板では費用が掛かるので、安いふとんカゴ工法になる。ふとんカゴの多段積^{ただんづみ}工法は、上の段ほど川を中心から遠くなる。そうすると、増水で水面が広がる。川が広がるとそこだけ流速が落ちる。減速するとそこに土砂堆積が起き、自然ダム・早瀬ができる。早瀬の上流側は水がたまる・淵になる。早瀬の両岸には土砂がたまり、草が生え、魚が隠れる。単調な環境から多様な環境になる。改修工事で川の生態系を豊かにできる。

紹介 このふとんカゴ工法に、新方式を実現した人達が、今日見えています。ご説明をお願いします。



分科会参加の皆さん

福井工業 ふとんカゴの石の間に、パイプを連結して埋め込み、水中に沈めて、そこに魚が入れるようにしている。2023 年に実証実験して、魚を確認できました。現在、熊谷市の和田吉野川で施工しています。

→その工法は高いのですか。

福井工業 かごマット単価は、1 m² 5~6,000 円。それにパイプ布設で 1 m² 478 円高くなる。

→1 m² 当たり 8~9% 高い。その高い工法を選ばせるのが、市民の仕事。地元要求あれば、職員は県議会に予算説明ができる。地元要望ないと高い予算は組めない。これを導入せよと、市民要求があれば、予算は通りやすい。ちなみに、これで現場労働者は賃金上がりましたか。

福井工業 上がりました。

→行政・市民・業者、みながウインウインになれるよう、市民が知識をもって、川づくりしましょう。

以上で分科会は終了。

第5分科会「水辺の生物」

テーマ：水辺の生物

1. 開催の挨拶（守山）、川の博物館（藤田）、記録については、未定のため会場で、ご協力いただける方を募る
2. 会場参加者の簡単な自己紹介、現在の活動紹介等（団体代表・個人）
3. 「水辺の生物」についての話題提供・情報発信
高校生からスタート
 - ①ポスター発表者、浦和実業学園中学校・高等学校生物部
「埼玉県内のドジョウ系統と分布調査の状況について」（質疑含む）
 - ②ポスター発表者、栄東高等学校理科研究部
「水温上昇及び水質の変動が河川生態系に与える影響とその将来展望」（質疑含む）
 - ③会場参加者からの話題提供・情報発信
 - ④ポスター発表者、「標高 10m 以下のホトケドジョウがピンチ」
山室湧水路の清流保全プロジェクト（富士見市）・守山
4. 話題が魚類に偏らないように、配慮して進行に心掛ける
5. 終了の挨拶（守山・藤田）

会場参加者 32 名 会場サポート県職員 2 名 計 34 名参加（会場目視）

【日時】：2025 年 2 月 10 日（土）13：30～16：00

【場所】：埼玉会館 7 階 7B 会議室

【主要メンバー】：

守山（進行役） 山室湧水路の清流保全プロジェクト・富士見市

藤田（副進行役） 埼玉県立川の博物館

久保田先生（記録） 西武学園文理中学校

（分科会の開会挨拶で呼びかけに、応答いただき大変助かりました）

【話題提供・情報発信資料】

会場の参加者と交流を深めるために、まずは簡単な自己紹介と活動概要を1人1分程度で行いました。また、それぞれの話題や情報について、参加者が気楽に楽しく発言できるように会話形式で会を進めました。

第5分科会で実施した内容について、以下にその概要を記します。

1. はじめに

主要メンバーの守山、藤田先生の自己紹介・現在の活動紹介をした。

記録担当を分科会参加者に、お願いしました。

2. 会場参加者の簡単な自己紹介、現在の活動紹介（団体代表・個人）

以下の団体・個人の自己紹介・現在の活動紹介をした。

笹目川の環境を守る会2名、NPO 法人荒川流域ネットワーク、浦和実業学園中学校・高等学校生物部2名、西武学園文理中学校科学部3名、坂戸市・ホトケドジョウ調査会3名、水中写真家市塚氏、埼玉県立川の博物館、黒目川を愛する会3名、黒目川筋肉部2名、シモゾノ学園大宮国際動物専門学校、よみがえれ元荒川の会、山室湧水路の清流保全プロジェクト、和光市市民2名、個人参加5名。

※当日参加者多数存在。担当配置ができておらず、受付簿が準備できず反省。

3. 「水辺の生物」についての話題提供・情報発信

①ポスター発表者、浦和実業学園中学校・高等学校生物部

「埼玉県内のドジョウ系統と分布調査の状況について」

背景と目的

ドジョウはメダカと並んで身近な淡水魚だが、メダカは1999年に、ドジョウは2018年に準絶滅危惧種に指定された。ドジョウがここまで数を減らした要因として三つの理由を上げる。1つ目は水質の悪化、2つ目が環境の急変、3つ目に外来種ドジョウによる影響。3つ目の外来種のドジョウによる影響について調べた。まず、外来種のドジョウは、このカラドジョウと外来種系のドジョウのことを示す。

調査時期は2023年の7月から10月にかけて埼玉県内の用水路や農業の河川などを回って調査を行った。調査する数としてDNA調査が正しくできる数は10匹となっているので10匹を目安に採取。採取した個体は標本にして70%エタノールにつけて地域ごとに分けて瓶に入れて保存した。そのうち東山、東松山市と呼ばれる場所の10個体をDNA分析にかけた。

結果について。埼玉県は秩父市などの山地と東松山市などの比企丘陵地帯や浦和市や春日部市などの平野部の西高東低の地形となっている。この地形に沿ってドジョウの分布を調査した結果として、在来種系統のドジョウは比企丘陵地帯などの方に多く生息し

ていた。それに対して外来種系統のドジョウやカラドジョウは平野部の河川に沿うより分布していました。平野部の場所によっては、在来種系統のドジョウが確認できない場所もあった。

次に**考察**。寒冷化によって関東平野が出現したことで、丘陵地などにいた在来系統のドジョウが平野部のほうまで下りてきて、生息を広げた。しかし、1960年代の平野部の都市化によって、食用などにされていたドジョウが激減してしまい平野部のドジョウが少なくなってしまった。その数を補うためにカラドジョウや外来種系統のドジョウを持ち込んだものが、自然に逃げ込んで子孫残して生息を広げていたのではないかと考えた。ただし、平野部から丘陵地帯には河川の流速の関係で登ることができず、丘陵地帯の方まで生域を広げることができなかったのではと考えられる。しかし、最近のDNA分析で丘陵地である東松山市の10個体をサンプルとしてDNA分析したところ、外来種系統のドジョウが9個体、在来種系統のドジョウが1個体となった。ただいま外来種系統のドジョウと在来種系統のドジョウが混雑しているところがとても多く、その外見上の特徴ではもう識別がとても難しく、今回の結果をちゃんとDNA分析した場合、もっと外来種系統の場数の割合が高いのではと考えられる。結果として在来種のドジョウはかなり数が少なくて、危機的状況にあるのではないかと考えている。

②ポスター発表者、栄東高等学校理科研究部

「水温上昇及び水質の変動が河川生態系に与える影響とその将来展望」

2013年度から地球温暖化による気温上昇にどんな生態系に影響を及ぼすのかを、解明するため、芝川が増水した時に増水を防ぐための調節池において、生物調査を3回実施した。今回問題提起をしたのが、この第七調節池の今回得られたデータについて。まず水質の第七調節池の水質の特徴としては、pHが高く、窒素濃度が低い特徴が現れた。

これは例年において継続的に同じような傾向が見られる。考察として、夏期の植物プランクトンが増加しやすくなったと考え、pHが高くなる要因として植物プランクトンが増えており、水中の酸素が消費される結果として、水質全体がアルカリ性に偏る。植物が増えるのに必要な三大栄養素、窒素、リン酸、カリウムなのでこの窒素の値が低くなるのは植物増殖によるものだと考えた。今年度や2020年の調査において確認されたのが、第七調節池の沿岸部って小規模のアオコが確認された。顕微鏡観察で植物プランクトンを観察した結果、原因となるミクロキッツとミクロキスクなどのプランクトンが多数確認された。量的比較を行っていないため、各プランクトンの正確な割合は不明だが、一番増殖率が高いのが水温30度であった。2014～2000年において30度を超えることは殆どなかった。しかし、近年になって2020年度あたりから水温30度を超える日が出るようになった結果、本年度、観測史上初めて第七調節池でごくごく小規模であるがアオコは確認された。第三調節池に計3回生物調査で観測された生物としてはヌマビル、黒メダカやヨシノボリであった。

大きく言いたいことは主に二つ。水温上昇により懸念される河川生態系の影響。一つ目が水温上昇により高音に対する耐性が低いとモツゴやユカワの例を含めた水棲生物の減少。二つ目が溶存酸素量の低下によって水棲生物の数が減少する。つまり水温上昇により生態系の質の低下が起こるかもしれないということ。これから詳しく調査を進めていって、今後どのようにこの芝川の生態系に影響を与えているのか調査して行く。

③情報提供【埼玉県立川の博物館：藤田先生（学芸員）】

埼玉県の魚が分科会であまり種類が多く上がらない。マルタとマルタウグイは全国的に見て、関西の方にはいない。太平洋側の関東に比べていない。埼玉県都市河川でも例えば黒目川だけでもかなり自慢かなと思っている。また、埼玉県の自慢できるのは3月2日ぐらいから4月ぐらいに向けて多分ぜひ埼玉県自慢の丸太を見ていただきたい。

もう一つ1種貴重な昆虫（水生動物）が昆虫の研究者の論文発表で出ているが、その生息地というのが実は東日本ではもう最後ぐらいじゃないか。魚類以外でもぜひ関心を持ってもらえたらと思っています。ムサシトミヨ保護センターというのが熊谷市にある。この近くにデッキから川の中を覗くことができる。キショウブ（水草）も今刈り取られていて、この水草の間にミズスマシが水の上をスイスイ動いているのが見える。貴重な生物を街中で見ることができる。ご興味がある方はぜひ今のうちに。

15分休憩後

④情報提供【山室湧水路の清流保全プロジェクト（富士見市）・守山】

2018 県 RDB 動物編、ホトケドジョウ特記事項にある県内の標高 10m 以下のホトケドジョウの保全活動報告。ウキゴリ類の侵入により危機的状況が予想されている。



山室湧水路 旧川のモニタリング結果について

区間	調査日	調査時間	調査員	調査結果
山室湧水路 旧川	2018.07.14	10:00~11:00	山室湧水路 旧川	調査結果
山室湧水路 旧川	2018.07.14	11:00~12:00	山室湧水路 旧川	調査結果
山室湧水路 旧川	2018.07.14	12:00~13:00	山室湧水路 旧川	調査結果
山室湧水路 旧川	2018.07.14	13:00~14:00	山室湧水路 旧川	調査結果
山室湧水路 旧川	2018.07.14	14:00~15:00	山室湧水路 旧川	調査結果
山室湧水路 旧川	2018.07.14	15:00~16:00	山室湧水路 旧川	調査結果
山室湧水路 旧川	2018.07.14	16:00~17:00	山室湧水路 旧川	調査結果
山室湧水路 旧川	2018.07.14	17:00~18:00	山室湧水路 旧川	調査結果
山室湧水路 旧川	2018.07.14	18:00~19:00	山室湧水路 旧川	調査結果
山室湧水路 旧川	2018.07.14	19:00~20:00	山室湧水路 旧川	調査結果
山室湧水路 旧川	2018.07.14	20:00~21:00	山室湧水路 旧川	調査結果
山室湧水路 旧川	2018.07.14	21:00~22:00	山室湧水路 旧川	調査結果
山室湧水路 旧川	2018.07.14	22:00~23:00	山室湧水路 旧川	調査結果
山室湧水路 旧川	2018.07.14	23:00~24:00	山室湧水路 旧川	調査結果



質問・意見交換

(ホトケドジョウ調査会)

湧水に依存したムサシトミヨもそうだが、ホトケドジョウ社会では湧水が欠かせない。以前からホトケドジョウを調査、報告書を出した。富士山なども昔は流れていたが、今はほとんどない。開発をすると人口が増えるのでどんどん地面を掘って水道水源として使う。以前は使っていた農家は水質や地盤の問題から使おうとしない。湧水は温度が一定な場所で特殊な生き物がいられる場所となっている。ここをどう保全して行くかが重要。ホトケドジョウのことを一生懸命伝えつつ、キャラクターを作るなどホトケドジョウの認知をするのに合わせて、埼玉県は湧水がある環境で、非常に貴重でとても価値のある物だと、生き物が住めることができる湧き水があること自体の価値そのものを周知しなくてはならない。ホトケドジョウが好きな環境はどういう環境なのかによって要請することによってそれが増える可能性もあるのでは？

(よみがえれ元荒川の会)

当日配布資料「よみがえれ元荒川の会」の活動と課題を蓮田市齋藤さんから報告。

(黒目川筋肉部)

黒目川では、川島町の方で釣り人などが勝手に放流した(岐阜の方)のが増えていて、遺伝子汚染がものすごく起きているということを今日伝えたい。何が在来で何が大事だって結構難しい部分もあると思うが、基本は今いる魚を守っていくというのが基本だと思う。

進行役・県立川の博物館・藤田さんから、その他の生物の情報提供の呼びかけに対して、黒目川筋肉部の高校生からマルタやタナゴ類の質問、荒川流域ネットワークさん、水中写真家さんが話題提供や情報提供があった

(笹目川環境を守る会)

川の流れてる脇のところにウマノスズクサっていうのが絶滅危惧種だったが、埼玉の一部では生えている。海外ではグリーンモンスターと言われるクズだが、刈らないで欲しいとお願いしても、クズだからとウマノスズクサが全部刈られてしまう。そうすると、それを食べて育つ蝶が幼虫の時に食べられないで途中で死んでしまう。なんとか刈らないでと伝える方法はないか？北越谷駅で2017年に比較的多く生えるのを見つけて、それ以来私たちの会で保護育成をしている。自治体にも許可をとっているが、県の方でも担当者が変わると、植物を大事にするグループと川の流れをきれいにしたいグループに変わって話がコロコロ変わるのが困る。

(市民団体参加者)

とにかく根気強く相手に伝えていくしかない。何度でも言い続ける必要がある。茨城県でも駆除を外来種の駆除を行政に何度か依頼するが、監督が変わると振り出しに戻る。市議会で代表質問などができればいいが、そういう現状を伝え続けていくしかないかなと思う。

(市民団体参加者)

生き物や自然についての知識がない人が刈ってしまう。例えば、冬はアオジとかウグイスが隠れたり、エサを取るなどを知らず、どんどん綺麗にすれば良いと考えて刈ってしまうので、やっぱり管理事務所の方にお話をしてこの時期はこういうものだと一生懸命伝えていくしか今は方法がない。実際問題、草を駆除するのを経済ではなく、その生き物にとっての投資と思っていただきたい。地域によっては、一年中生態系に影響するものもあるので、やはり知識のある人に除草をお願いしたい。

(市民団体参加者)

日本の里山里地は日本の生態系の環境保全の鏡として、北米ように環境保健環境教育として交流会を実施して魅力を伝える必要があると、皆さんの話で大変感じました。

(よみがえれ元荒川の会)

除草するときに県の方と毎回相談しているが、だんだん「じゃあ今度ね」「もう予算がなくて手前から10mぐらいでもうおしまいなんだよね」など、結果的にできませんっていうような言い方になって、業者にほったらかしにされてしまう。以前に環境学習会を開催して小学生を呼んだが、現地の川の付近の注意書き看板が外された。文言が悪いからはずしたと言われたが、不適切な内容や不備のある内容ではない。どういう判断で外したのか分からないが行政に勝手外されて環境学習会ができなくなった。代替りの方法も何も考えないで頓珍漢なことばかりしか言わない。

(埼玉県立川の博物館)

ありがとうございます。環境学習会でも今回お話しされたことはかなり入っていると思う。午前中のスライドの資料は後々YouTubeにも配信されるので、そこでも振り返っていただきたい。里山では、サンショウウオがアライグマにやられてしまっただけで数を減らしている+湧水が枯れてしまったなど、複合的に影響が出ている。埼玉県の湧水も含めてギリギリの線で生物種が残っている。やはり行政との連携が重要になる。私も担当が変わるまた振り出しに戻る経験を何度もしているので、悩ましい問題ではあるが、生き物を守る行為というのはすごく大事なことで、若い人にも参加していただける機会を設けるよう頑張りたい。若い人が関わって盛り上げて、チャンスを繋いでいた

だきたい。

5. 終了の挨拶（守山、藤田）

では、皆さん今日はありがとうございました。

これで、今回の第5分科会「水辺の生物」は終わりにします。

次頁の写真は、第5分科会の会場での実施状況です。

（写真撮影と掲載承諾については、事前にプログラムで参加者にお願ひしました。）





【埼玉県川の再生交流会・第6分科会報告】

記録担当 角田道郎

1. 分科会役員

- 座長 大石昌男（戸田の川を考える会）
- 司会 近内勝実（綾瀬川を愛する会）
- 記録 角田道郎（戸田の川を考える会）

2. 分科会参加者自己紹介

特に司会からは時間の制限はなく、結果1時間をかけて全員が発言した。本日この分科会に参加した理由や所属する会の活動報告等が自由に語られ、いい交流の場となった。参加者の所属団体は、河川護岸工事業者、川爺（野火止用水）、綾瀬川を愛する会、戸田の川を考える会、彩の国環境大学修了生の会…。特に、杉戸高校理科部（古利根川で水質検査に取り組む）、独協大学米山ゼミ（伝右川再生活動）という若い人たちの参加は、多くの人から歓迎された。以上、7団体・分科会参加者23名。

3. 座長からの問題提起（資料参照）

「県が主導した『綾瀬川（水質）ワーストワン脱却とことん大作戦』について」
報告概要

- ・昭和30年代初めの頃の綾瀬川は水遊びもできるきれいな川だったが、その後地域の発展と共に汚くなり、昭和55年からは15年連続（～平成6年）の全国ワースト1という最も汚い川となってしまった（国土交通省の水質調査）。その後ワースト1から一時順位を上げるも、平成16年に再びワースト1になるなど一進一退が続いた。
- ・そこで、県は、平成18年「綾瀬川ワースト1とことん脱却大作戦」取組を開始する。
 - ①10年に及ぶ大作戦は、基本的には目標を達成した。
 - ②運動は3部門に分かれて展開した。
 - ・行政部門…市町村と県の運動
 - ・浄化槽協会との連携（業者）
 - ・市民活動…綾瀬川市民ネットワーク。その後“埼河連”に発展し現在に至る。
 - ③活動の主たる実施内容
 - ・各団体の日常活動…水質調査、ごみひろい、他。
 - ・映画「ほたるの里」上映会…○川口会場 ○草加会場 ○越谷会場
○岩槻会場 ○八潮会場 （5会場動員：約1,800人）
 - ・ワースト1（ワン）、ワースト2（ツー）の交流見学会
大阪～奈良ワースト1・2の大和川へバスツアー見学に近畿整備局の案内で30人が参加した。大和川ネットワークとの交流は今も続いている。
 - ・埼河連が確立する前であったが、全県の運動の礎（いしづえ）になったと考えている。
- ワーストワン脱却の運動は、基本的には目標を達したと自負している。
全県レベルで水質改善の運動、ごみひろい清掃、・・・運動への大きなうねりは今後も継続している。
- 綾瀬川ワースト1の主な原因については、県からは何の説明も無い。そこで、市民運動の中で色々と原因を探る中で分かってきたこと（突き止めたこと）は、川の周辺の浄化槽の維持・管理がキーポイントである、ということであった。
- この事は、大阪～奈良を流れる大和川についても、同じ事が指摘できる。
- 以上の事から、いたずらにワースト1を決めつけて最下位を指摘するのは止め、浄化槽の普及に目を向けて運動を進める重要性に気がつき、『浄化槽フォーラム』の設立に至った。理事メンバーに大石昌男（川にやさしい浄化槽フォーラム埼玉代表に選出された・戸田の川を考える会）、幾島淑美（綾瀬川を愛する会）。

- その後、『浄化槽フォーラム』での論議が発展して世界に向けてのメッセージ発信になったことを付記しておく。
- 川の汚れの80%は各家庭からの排水が原因である。川の汚れの主たるものは浄化槽の維持・管理に起因し、その状況は水質のワーストにほぼ比例することを突き止めたことは大きな成果だった。この分野での世界的フォーラムでは、日本を代表して大石、幾島が成果を発表した（マレーシア大会）。

4. 研究協議

- ・司会から参加者に「県からこの大作戦について説明を受けた人は？」と問うと、一人もいなかった。つまり、県からこの大作戦についての積極的なアピール（説明）は無かったようだ。
- ・それでも綾瀬川の汚名挽回に向けて地元市民は粘り強く取り組み、綾瀬川の浄化が実感できるに至った。今では多くの人が綾瀬川はきれいになったことを認めている。

5. 座長からの提案

- 「県が提起した『綾瀬川（水質）ワーストワン脱却とことん大作戦』については、その成果が出たことをここで確認して、この大作戦は本日をもって“終了”とする。このことをこの分科会として確認したい」と座長から提案があった。
- ・これに対して、一部の出席者は「自分はその議決には加われない」という趣旨の発言（保留意見）もあった。
- ・しかし、再び綾瀬川の水質悪化のきざしが確認されれば、強い気持ちをもって活動を復活させる。そのことを確認して、いつまでも綾瀬川の水質ワーストワンというイメージを引きずっていくことは止め、この大作戦は終了とする、と司会でまとめて了承された。

本取り組みに当たられた全ての方々にお礼申し上げます。

以上

県が主導した「綾瀬川（水質）ワーストワン脱却とことん大作戦」のまとめ

【当時の綾瀬川の状況】

- ・昭和30年代初めの頃は、水遊びもできるきれいな川。
- ・その後地域の発展と共に汚くなり、昭和55年からは15年連続（～平成6年）の全
国ワースト1という最も汚い川となってしまった（国土交通省の水質調査）。
- ・ワースト1から一時順位を上げるも平成16年に再びワースト1になるなど一進一退。

【経過】

- ・県は平成18年「綾瀬川ワースト1とことん脱却大作戦」取組開始。
 - ①10年に及ぶ大作戦は、基本的には目標を達成した。
 - ②運動は3部門に分かれて展開した。
 - ・行政部門…市町村と県の運動
 - ・浄化槽協会との連携（業者）
 - ・市民活動…綾瀬川市民ネットワーク。その後“埼河連”に発展し現在に至る。
 - ③活動の主たる実施内容
 - ・各団体の日常活動…水質調査、ごみひろい、他。
 - ・映画「ほたるの里」上映会…○川口会場 ○草加会場 ○越谷会場
○岩槻会場 ○八潮会場 （5会場動員：約1,800人）
 - ・ワースト1（ワン）、ワースト2（ツー）の交流見学会
大阪～奈良ワースト1・2の大和川へバスツアー見学に近畿整備局の案内で
30人が参加した。大和川ネットワークとの交流は今も続いている。
 - ・埼河連が確立する前であったが、全県の運動の礎（いしずえ）になったと考
えている。

【まとめ】

- ワーストワン脱却の運動は、基本的には目標を達したと自負している。
全県レベルで水質改善の運動、ごみひろい清掃、・・・運動への大きなうねりは今
後も継続している。
- 綾瀬川ワースト1の主な原因については、県からは何の説明も無い。そこで、市
民運動の中で色々と原因を探る中で分かってきたこと（突き止めたこと）は、川
の周辺の浄化槽の維持・管理がキーポイントである、ということであった。
- この事は、大阪～奈良を流れる大和川についても、同じ事が指摘できる。
- 以上の事から、いたずらにワースト1を決めつけて最下位を指摘するのは止め、
浄化槽の普及に目を向けて運動を進める重要性に気がつき、『浄化槽フォーラム』
の設立に至った。理事メンバーに大石昌男（川にやさしい浄化槽フォーラム埼玉
代表に選出された・戸田の川を考える会）、幾島淑美（綾瀬川を愛する会）。
- その後、『浄化槽フォーラム』での論議が発展して世界に向けてのメッセージ発信
になったことを付記しておく。
- 川の汚れの80%は各家庭からの排水が原因である。川の汚れの主たるものは浄化
槽の維持・管理に起因し、その状況は水質のワーストにほぼ比例することを突き
止めたことは大きな成果だった。この分野での世界的フォーラムでは、日本を代
表して大石、幾島が成果を発表した（マレーシア大会）。

以上

広報 データ 法令 政策 海外 交付金・補助金 マニュアル リンク集 ホーム

広報

ニュース / イベント / 新聞掲載 / Q&A / キーワード検索

ホーム > 広報 > 環境学習活動 > 「綾瀬川ワースト1とことん脱却大作戦」埼玉県

自治体や各種団体の浄化槽に関する環境保全への取り組みや活動を紹介。

「綾瀬川ワースト1とことん脱却大作戦」埼玉県

「水環境保全への取組（現場取材＆インタビュー）」

埼玉県環境部水環境課 平田さん

綾瀬川ワースト1とことん脱却大作戦！

埼玉県と東京都を流れる綾瀬川は国土交通省の水質調査で昭和55年から15年連続ワースト1の記録をもつ日本一汚れた川として有名です。近年は地域の取組や市民団体の活動の成果もあり、ワースト1から順位がとがっていたのですが、平成16年度に再びワースト1になってしまいました。そこで、この結果を受け、平成18年度に「綾瀬川ワースト1とことん脱却大作戦」の取組を始めました。

流域の住民や企業が一丸となって取り組み！

これは、例えば工事をして水質浄化を図るといふ、行政だけではなく、住民、団体、企業と流域が一丸となって水質浄化に取り組むのになります。具体的な活動としては、地元や学校に対し、河川浄化団体が講座を開いたり、行政が排水対策として浄化槽の講習会の開催や啓発のため「家庭の生活排水についての心がけ」チェックシートを配布したりしています。

県がNPO基金を設立！

こうした活動は、「綾瀬川清流ルネッサンス」などでも行われていますが、特徴的なのは、県がNPO基金を設立し、企業に対し寄付を募り、それが各団体の活動に充てられるというしくみです。行われているところです。

川の汚水
80%は
各家庭から
排水点検

浄化槽の
町まで

排水の実施率は

川の汚水 水質のT-A - にほぼ比例

綾瀬川清流ルネッサンスって何？

綾瀬川清流ルネッサンスとは、国土交通省や流域の広域協議会が綾瀬川とその支流である古瀬川、右川、毛呂川などをきれいにするための活動です。平成7年度から「綾瀬川ルネッサンス21」を推進し、大規模な水質改善が望めるものの、飲料水として「臭い」「味が悪い」「ゴミが浮いている」などの問題が続いています。そこで、流域の地域協議会により良好な水質の再生を目指そうと、次期行動計画「ルネッサンス21」を平成15年2月に策定し、さらに浄化活動を行っています。



浄化槽の維持管理

1. 清掃
2. 点検・保守
3. 118. 検査

3つの検査

自転車の車検と同じ

浄化槽の法定検査

↓
検査

川の再生交流会2025アンケート

回答者 77人

※空欄や複数回答により回答合計数が回答者数と一致しない場合があります

■ 回答者情報

年齢

区分	%	回答数
20歳未満	22.1%	17
20代・30代	3.9%	3
40代・50代	24.7%	19
60代	6.5%	5
70歳以上	40.3%	31
未回答	2.6%	2
	100.0%	77



所属

区分	%	回答数
川の国応援団	46.8%	36
大学	0.0%	0
高校・中学	23.4%	18
個人サポーター	3.9%	3
企業サポーター	0.0%	0
企業（企業サポーター以外）	10.4%	8
行政	3.9%	3
研究機関	0.0%	0
その他	10.4%	8
未回答	1.3%	1
	100.0%	77



その他回答

- 教員
- 商店街関係

参加回数

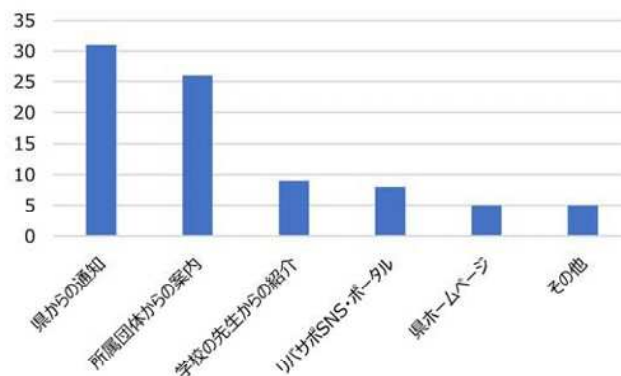
区分	%	回答数
初めて	50.6%	39
2回目	9.1%	7
3回目	2.6%	2
4回以上	33.8%	26
未回答	3.9%	3
	100.0%	77



■川の再生交流会及び【第1部】全体会について

来場のきっかけ（複数回答可）

区分	%	回答数
県からの通知	40.3%	31
所属団体からの案内	33.8%	26
学校の先生からの紹介	11.7%	9
市町村からの通知	0.0%	0
リバサポSNS・ポータル	10.4%	8
県ホームページ	6.5%	5
その他	6.5%	5

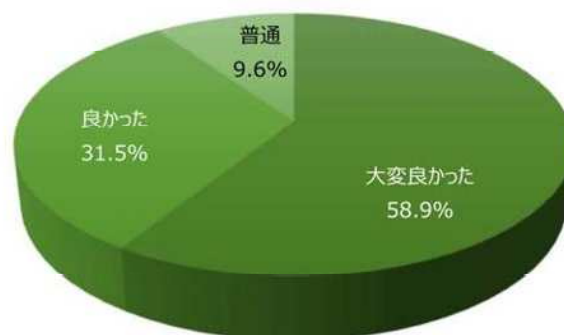


その他回答

- 会社からの通知
- 川博からの案内
- 連れてこられた

スタッフの対応

区分	%	回答数
大変良かった	58.9%	43
良かった	31.5%	23
普通	9.6%	7
悪かった	0.0%	0
大変悪かった	0.0%	0
	100.0%	73



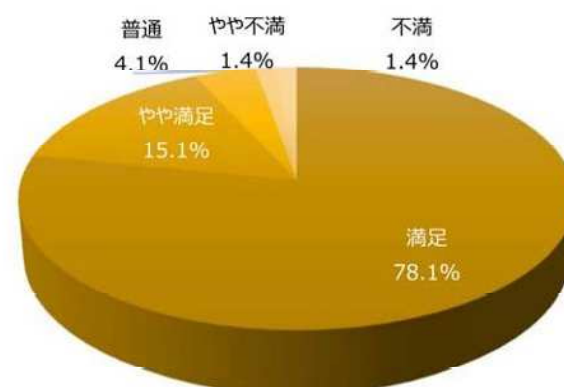
基調講演

区分	%	回答数
満足	88.2%	67
やや満足	6.6%	5
普通	5.3%	4
やや不満	0.0%	0
不満	0.0%	0
	100.0%	76



事例発表

区分	%	回答数
満足	78.1%	57
やや満足	15.1%	11
普通	4.1%	3
やや不満	1.4%	1
不満	1.4%	1
	100.0%	73



リバサポアワード

区分	%	回答数
満足	71.8%	51
やや満足	18.3%	13
普通	8.5%	6
やや不満	1.4%	1
不満	0.0%	0
	100.0%	71



その他、第1部の内容について、ご意見ご感想や、今後希望する内容等をご記入ください。

(発表について質問したいことがある場合もこちらにご記載ください)

- 交流会の参加は今回初めてです。各講演発表に大変感激しました次回もまた参加したいと思います。
- 五箇教授のお話は、今迄聞いたことのない、観点からのプレゼンは感銘を受けました。人間の独善的な行動に対する、自然界の反発に対しては感ずるところ多々あり、非常に良かった。目からウロコの感じです。ありがとうございました。
- 基調講演が大変面白かったです。普段の活動で生物多様性について考えることは多いのですが、人間の社会と生物多様性の関係性についてはっきりとした意見を持っていなかったため、今回の講演を聞いて、新たな知見を得て、生物多様性について考え直すきっかけになりました。
- 基調講演では、初めて知ることや、より詳しく知れたことなどがあってとてもおもしろかったです。特にカエルの感染症が実は日本から広がっていたということがわかったという研究がびっくりしました。
- 基調講演のスライド・話の展開が非常に面白かったです。特に、ヒアリが原産地のアフリカからバトンパスのように、北米→中国→日本へと渡ってきたことにはとても驚きました。
- 日本の植物が外国に行く、大きな繁殖力をもっていることなど、きいていて楽しく、おもしろかったです。
- 話の内容の構成が、興味を引くものでとても面白かったです。
- 話し方、スライドの内容がとても面白くて、私も同じように作ってみたいです。「w」とかなど、とても魅力的だったため、見返したいと思いました。
- 講演会がとてもおもしろかったです。とても参考になりました。YouTubeに講演があがるのがうれしいです、ありがとうございます。
- たいへん面白い講演でひきこまれました。自分たちのエゴの形が生態系保全という発想が興味深かったです。
- 講演がとてもおもしろく再びききたくなるような内容でした。「ひやり」については小学生のときにポスターをよんで、印象的でした。そのため啓発活動のさいにしているかは学生にきいてみたところ知らないといわれたのでもうひやりが縮小したのかと思っていました。しかし、それがじつでないとよかったです。
- 基調講演が、わかりやすく面白く、最後まで熱中して聞きました。
- とてもおもしろかったです！！(基調講演)
- 講演も面白く運営もすばらしかったです。司会のアナウンスも高校生とは思えないほどに上手でした。
- 司会がとても上手だった。
- 日程について、埼玉大学で行われる埼玉県理科教育研究発表会と重ならないようにしていただければ幸いです。来年度につきましてご検討ください。
- 今後も頑張って下さい。
- 五箇先生のご講演をたいへん興味深く、楽しく拝聴しました。「生物多様性」はどうして大切なのか、なぜ守らなくてはならないのか漠然としてよく分かっていなかったため、今日分かることができました。人間がグローバル化していること、新興ウイルスがパンデミックとして増えすぎた人間に機能していることなど。一方で少子化対策が叫ばれている人間社会。などたくさんの学びを頂いたことこのあとゆっくり考えます。
- 様々な活動・取組みを知る良い機会になりました。
- 基調講演すばらしかった。
- 初めて聞いた事がたくさんありましたが、生物多様性が地球存続や人間の生活・社会に深く関わっていることがわかり大変参考になりました。小学生の息子を連れて来ましたが広い視野を持つよいきっかけになっていると思います。
- 川女の司会の方がプロのようにとても素晴らしいです。基調講演において、温暖化対策だけでなく、生物多様性の保全がとても重要であることがわかりました。
- Qは無いが、内容はとても良かったです。
- 初めて認識したことも多く、貴重なお話を聞いて良かった。
- 基調講演、多分野に渡る角度から勉強になった。各団体発表良かった。
- 過去の事例発表会の参加者が多く参加してくれたが、今年は参加者が少なかったのは残念です。又、表彰式にはさらに、少なくなり残念です。
- 五箇先生のお話も、川越女子高校の皆さんの取組み発表も大変興味深かったです。自身の身近な環境に感謝しながら、その範囲内で保全維持活用を進めなければと思いました。
- 「生物多様性VS人間の欲」の言葉が印象的でした。バランスをとりつつ推進することの重要性を再認識。五箇先生のテンポのよい講演が楽しくも心にものこりました。川女のフィールドワークの広さに感心。水槽で生育できなかったビオトープで生育を成功させたのはすごい。カルタすばらしい！！
- おもしろい発表を聞くことができてよかった。
- 先生の講演は大変興味深く、おもしろく拝聴できた。
- リバサポクエストのポイントで、行列が進まない→LINE登録からやっている人に時間を取られている。登録済と初めての方の列を分けてほしいかったです。
- 初めて知ることがたくさんあって、情報処理をしながら話を聞くのが大変でした。生態系保全に向けて、自分のできることを広げていきたいと考えました。また技術力による生態系保全がどれくらいできるものなのか、未来へつなぐ方策になりうるのか気になります。
- 私は中学生で、環境についてきちんと考えてきたことがありませんでした。しかしこうした貴重なお話を聞くことができ、私たち若い世代がこれからも悩み続けたいと感じました。
- 五箇先生のパワーを強く感じました。生物多様性と人間(活動)のエゴ、里山・地産地消につなげる展開ですーとしました。
- 五箇さんの講演を楽しみに来ました。生物多様性とは何かということが理解できました。

■【第2部】ポスターセッションについて

第2部の内容

区分	%	回答数
満足	57.4%	31
やや満足	27.8%	15
普通	14.8%	8
やや不満	0.0%	0
不満	0.0%	0
	100.0%	54



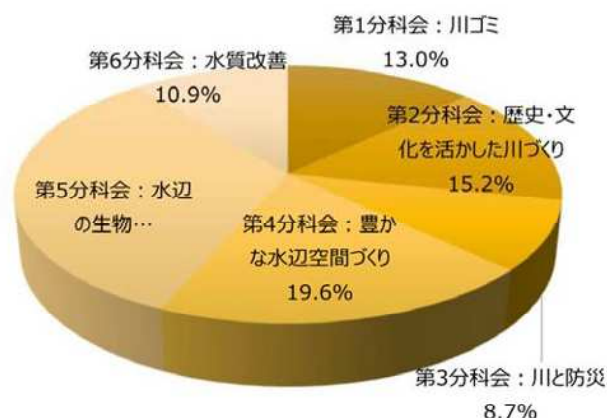
第2部の内容について、ご意見ご感想や、今後希望する内容等をご記入ください。

- 掲載内容に、"これは入れてほしい"というものを県が指定してはどうですか？各団体の取組、考え方が比較しやすく、面白いと思います。水質など
- 色々な団体を知ることができた。
- 色々なテーマがあって、自分の知らないことがたくさんあって、おもしろかったです。
- いつも学校で参加する発表会とは違い、学校以外の団体や企業様の活動を知ることができたため、また希少な機会となりました。
- 県内の学生の皆さんの活動がわかってよかったです。
- 簡単なものでいいので、全体図や配置図をわかりやすい所にはってほしい。
- 色々な団体の方と交流できてとても良かったです！！
- 写真の展示についての意見、写真のみの展示なので、見る側としては説明がほしい。撮影場所、撮影年月日、撮影者のコメントくらいは載せてもらいたい。
- 学生の方がたくさん研究されていることに驚きました。とても素晴らしいかったです。
- 自己コーナ対応に追われ、他のブースを回る時間が無った。
- ポスターに番号を付けて、説明する時間を半分に区別し、例えば奇数番号は前半の30分間等にとすると、発表者も他のポスターを見ることができて良さそうである。
- もっと多くの人に参加すれば良い
- 様々な取組み団体がいることを知る機会となった。
- ポスターの材質がとてもよかったので地元でも活用します。
- いろいろな発表などを見ることができてよかった。
- 皆さん、ガンバってますね。
- 学生さんの発表が多く、未来に期待のできるものが多く見られた。
- 様々な工夫がされたポスターや、ていねいな説明をして頂きとても満足でした。
- 交流がなかった団体との交流もでき、良かったです。
- 関係のある方々と話ができ良かったです若い人も多いので今後が楽しみです。
- 各部門質問に詳しく答えてくれました。

■【第3部】分科会について

参加された分科会

区分	%	回答数
第1分科会：川ゴミ	13.0%	6
第2分科会：歴史・文化を活かした川づくり	15.2%	7
第3分科会：川と防災	8.7%	4
第4分科会：豊かな水辺空間づくり	19.6%	9
第5分科会：水辺の生物	32.6%	15
第6分科会：水質改善	10.9%	5
	100.0%	46



第3部の内容

区分	%	回答数
満足	59.5%	25
やや満足	26.2%	11
普通	14.3%	6
やや不満	0.0%	0
不満	0.0%	0
	100.0%	42



第3部の内容について、ご意見ご感想や、今後希望する内容等をご記入ください。

- 第4部会のリーダーが明解な進行をして呉れ、有意義な時間でした。
- 第4分科会に参加して皆様の川の再生に取り組んでいる内容に大変参考になりました。ありがとうございます
- 地域によって川河に対する意識のちがいを感じた。また参加したい
- じゃかゴに関する知識を得ることができた。じゃかゴはカターの乗艇が行い易くよい。国の河川でも推進してほしい。
- 活動のヒントを頂きました
- 時間の関係で参加しませんでした。今後とも活動に参加していきます。ありがとうございました。
- 知らない生き物、県内の自慢できる種について知ることができました。ありがとうございました。
- 参加者の意見を公平に聞こうという進行の仕方が良かった。
- 防災について、マイタイムラインなどを学習できました。
- 「綾瀬川ワーストワン脱却とことん大作戦」を止める(STOP)との提案の件、難しい問題ですが、今日の分科会で決めるのでは無く県と相談して頂きたい！！
- 上流～下流の人のつながりも大切だと感じました。
- 各参加者視点でのお困りごとなど伺えました。
- いろいろな団体や世代の意見や案を聞くことができた。
- あきらめないことを勉強しました。
- 川の生き物の大切さを学ぶことができました。
- 川の国埼玉県を全国に発信するために重要な会だと思いました。1人1人の個性がもっと発揮されるといいと考えます。
- 埼玉県の河川について真実に考え取り組まれている方々ばかりで、面白い話をたくさん聞けたと思います。
- 多種多様な話が聞けて初めて知ることもあり資質が、全力で向上した気がした。その反面、人数が多すぎてまとまらない気がした。少グループでの展開をとり入れてもいいのではないですか
- 各G研究熱心、参考になりました。
- 全体について:皆さん地元の川河での活動なので川の名前を言われるのですが、地理がよくわからないことが多いです。できれば、埼玉県の河川地図をプログラムに入れていただけると、どこかな～？とさがすことができるので、お願いしたいです。

リバサポ公式SNSをフォローして リバーサポーターになろう！

LINE 友だち追加



読み取ったら
「追加」ボタンを押してください。



Facebook



X



Instagram



【問合せ先】

埼玉県環境部水環境課 浄化槽・豊かな川づくり担当
048-830-3088 / a3070-13@pref.saitama.lg.jp